

**SOPHOS**

Security made simple.

# SafeGuard Easy アップグレードガイド

製品バージョン: 7  
ドキュメント作成日: 2014年 12月



# 目次

1 このガイドについて.....	3
2 システム要件の確認.....	4
3 インストーラのダウンロード.....	5
4 アップグレードについて.....	6
4.1 SafeGuard Policy Editor のアップグレード.....	6
4.2 エンドポイントのアップグレード.....	8
4.3 エンドポイントの構成パッケージのアップグレード.....	9
5 移行について.....	11
5.1 SafeGuard Enterprise への移行 .....	11
5.2 エンドポイント上の SafeGuard インストールの変更.....	13
5.3 別の OS へのエンドポイントの移行 .....	13
6 テクニカルサポート.....	14
7 ご利用条件.....	15

# 1 このガイドについて

このガイドでは、以前のバージョンの SafeGuard Easy からのアップグレード、およびソフォスの暗号化ソフトウェア ライセンスの変更を伴う移行シナリオについて説明します。

サーバー用とエンドポイント用の両方のソフトウェアをアップグレード/移行する方法について説明します。

このガイドでは、SafeGuard Easy 6.0 または 6.1 から直接アップグレードする方法について説明します。

このガイドでは次の移行シナリオについて説明します。

- 一元管理の SafeGuard Enterprise 7.0 に移行する。
- エンドポイント上の SafeGuard インストールを変更する。

## 2 システム要件の確認

インストールおよびインストール後の安定稼働に必要なハードウェア/ソフトウェア、サービスパックやディスク容量などのシステム要件について、Sophos SafeGuard リリースノートの一覧で、最新版のリリースノートを参照してください。

<http://www.sophos.com/ja-jp/support/knowledgebase/112776.aspx>

## 3 インストーラのダウンロード

1. ソフォスの Web サイトを開き、社内のシステム管理者から入手したアカウント情報で「製品・アップデート版のダウンロード」ページにログオンし、インストーラと製品ドキュメントをダウンロードします。
2. ダウンロードしたインストーラとドキュメントを、インストール先からアクセス可能な場所に保存します。

## 4 アップグレードについて

SafeGuard Easy 6.0 以降は、最新版の SafeGuard Easy に直接アップグレードできます。以前の設定内容が変更されることはありません。それより古いバージョンからアップグレードする場合は、まずバージョン 6.0 以降にアップグレードする必要があります。

アップグレード中、インストール済みの機能やモジュールを変更することはできません。変更が必要な場合は、インストール済みのバージョンのインストーラを再実行して、インストーラを変更してください ([移行について](#) (p. 11) を参照)。

最新版へのアップグレードでは、以下の手順を実行する必要があります。

### 1. SafeGuard Policy Editor のアップグレード

この際、SafeGuard のデータベースも最新バージョンに自動アップグレードされます。

### 2. エンドポイント上の Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアのアップグレード

### 3. エンドポイント上の Sophos SafeGuard 構成パッケージのアップグレード

#### 注:

- すべての Sophos SafeGuard のコンポーネントとエンドポイントをバージョン 7.0 にアップグレードしたら、Sophos SafeGuard で生成した証明書の署名に使用するアルゴリズムを、より安全な「SHA-256」に切り替えることを推奨します。

この操作は、すべての Sophos SafeGuard のコンポーネントとエンドポイントを最新バージョンにアップグレード済みの場合のみ実行してください。「SHA-256」は、SafeGuard Easy 6.0 エンドポイントが SafeGuard Policy Editor 7.0 によって管理されているなど、バージョンが混在した環境には対応していません。

詳細は、**SafeGuard Easy 管理者ヘルプ**の「**自己署名証明書のアルゴリズムを変更する**」を参照してください。

- 有効なライセンスファイルが必要です。ライセンスの数が超過する場合、構成パッケージは作成できなくなります。あらかじめ販売元にライセンスファイルを請求してください。

## 4.1 SafeGuard Policy Editor のアップグレード

### 前提条件

- Windows の管理者権限があることを確認します。
- SafeGuard Policy Editor 6.0 以降がインストールされていること。それより古いバージョンは、まずバージョン 6.0 にアップグレードする必要があります。
- SafeGuard Policy Editor をアンインストールする必要はありません。
- 企業証明書 (\*p.12) とマスター セキュリティ担当者 (MSO) 証明書が使用可能で、パスワードを知っている必要があります。

- アップグレードを行う前に、.NET Framework 4 をインストールする必要があります。製品フォルダにあります。
- 有効なライセンスファイルが必要です。事前に販売元に請求してください。
- SafeGuard データベースは、Microsoft SQL Server Express Edition のデータベースを使用していて、データベースボリュームがローカルマシンに常駐する場合のみ自動アップグレードできます。自動アップグレードを実行できない場合は、ソフトウェアの Tools ディレクトリの「Database scripts > Migration scripts」配下にあるデータベースの移行スクリプトを使用して、データベースをアップグレードしてください（以下のステップを飛ばして、[Sophos SafeGuard データベースのアップグレード](#) (p. 7) に説明のある手順に従ってください）。

SafeGuard Policy Editor をアップグレードする方法は次のとおりです。

1. SafeGuard Policy Editor を閉じます。
2. SafeGuard Policy Editor 7.0 インストールパッケージをインストールします。構成ウィザードを再度実行する必要はありません。
3. アップグレードされた SafeGuard Policy Editor を起動します。SafeGuard のデータベースがバックアップされ、後で自動アップグレードされるというメッセージが表示されます。バックアップは次のファイルに保存されます。Program data\Utimaco\SafeGuard Enterprise\SGNDBBackup.bak

次に、データベースの整合性が自動的にチェックされます。一部のテーブルの暗号チェックサムが正しくない場合は、警告メッセージが表示されます。テーブルを修復するには、ダイアログで「**修復**」を選択します。変更されたテーブルのチェックサムが再計算されます。

4. ライセンス ファイルをインポートします。

これで、SafeGuard Policy Editor および SafeGuard データベースが最新バージョンにアップグレードされました。

#### 4.1.1 Sophos SafeGuard データベースのアップグレード

Microsoft SQL Server Express Edition のデータベースを使用していない場合、またはデータベースボリュームがローカルマシンに常駐しない場合、自動アップグレードは実行できません。この場合は、ソフトウェアの Tools ディレクトリの「Database scripts > Migration scripts」配下にあるデータベースの移行スクリプトを使用して、手動でデータベースをアップグレードしてください。

##### 前提条件:

- アップグレードを行う前に、.NET Framework 4 をインストールする必要があります。Sophos SafeGuard 製品ディレクトリ内にあります。
- Windows の管理者権限があることを確認します。

Sophos SafeGuard データベースおよびデータベース スキーマをアップグレードする方法は次のとおりです。

1. SafeGuard Policy Editor のインスタンスすべてを閉じます。

2. Sophos SafeGuard データベースのバックアップを作成します。
  3. Microsoft SQL Server Management Studio Express を開きます。
  4. 「オブジェクトエクスプローラ」で、Sophos SafeGuard データベースを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
  5. 「データベースのプロパティ」ウィンドウで、左側にある「オプション」ページを選択します。「状態」の「アクセスの制限」で、SQL 移行スクリプトの実行に対して「**SINGLE\_USER**」モードを選択します。
  6. 「オブジェクトエクスプローラ」で、Sophos SafeGuard データベースを右クリックし、「新しいクエリ」をクリックします。
  7. SQL 移行スクリプトを使用して、データベーススキーマをアップデートします。インストールされているバージョンに応じて、該当する SQL スクリプトを必要に応じて順に実行します。例:
    - a) 6.0x から 7.0: MigrateSGN600\_SGN700.sql を実行する
    - b) 6.1 から 7.0: MigrateSGN610\_SGN700.sql を実行する
- インストール時にデフォルトのデータベース名を変更した場合は、スクリプトで **USE SafeGuard** コマンドを変更して、正しい名前が指定されるようにしてください。
8. 「データベースのプロパティ」ウィンドウで、左側にある「オプション」ページを選択します。「状態」の「アクセスの制限」で、「**MULTI\_USER**」モードを選択します。
  9. 最新版の SafeGuard Policy Editor インストールパッケージ (SGNPolicyEditor.msi) をインストールして、SafeGuard Policy Editor のインスタンス 1 つをアップグレードします。詳細は、[SafeGuard Policy Editor のアップグレード](#) (p. 6) を参照してください。
  10. アップグレードした SafeGuard Policy Editor を開始します。

次に、データベースの整合性が自動的にチェックされます。一部のテーブルの暗号チェックサムが正しくない場合は、警告メッセージが表示されます。テーブルを修復するには、ダイアログで「**修復**」を選択します。変更されたテーブルのチェックサムが再計算されます。

これで、SafeGuard Policy Editor および Sophos SafeGuard データベースが最新バージョンにアップグレードされました。

## 4.2 エンドポイントのアップグレード

### 前提条件

- エンドポイントに Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアバージョン 6.0 以降がインストールされている必要があります。それより古いバージョンは、まずバージョン 6.0 にアップグレードする必要があります。
- Sophos SafeGuard データベースと SafeGuard Policy Editor がすでに最新バージョンにアップグレードされている必要があります。
- Windows の管理者権限があることを確認します。

エンドポイントをアップグレードする方法は次のとおりです。

1. コンピュータに管理者権限でログオンします。



- 最新のプレインストールパッケージ SGxClientPreinstall.msi をインストールします。暗号化ソフトウェアを正常にインストールするために必要なコンポーネントが、エンドポイントにインストールされます。

古いプレインストールパッケージはアンインストールしないでください。

- Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアの最新バージョンをインストールします。

Windows インストーラは、すでにインストールされている機能を認識して、そのみをアップグレードします。SafeGuard Power-on Authentication がインストールされている場合、更新の正常終了後、更新された POA カーネルも利用可能になります。Sophos SafeGuard がコンピュータ上で自動的に再起動します。

古いクライアントバージョンに Configuration Protection 機能があり、それに対応していないバージョンにアップグレードした場合は (例: バージョン 6.0 からバージョン 7.0 へのアップグレードなど)、Configuration Protection をアンインストールする必要があります。手動アップグレードを行う場合は、GUI でこの操作を実行し、一元的にアップグレードする場合は、CONFIRMCPREMOVAL=1 パラメータを指定してください。

- Configuration Protection を完全に削除するには、SGNCPClient.msi (または SGNCPClient\_x64.msi) のアンインストールも必要です。

これで、最新バージョンの Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアの指定した機能が、エンドポイントにインストールされました。

**注:** Sophos SafeGuard で保護されているエンドポイントを一元的にアップグレードし、同時に Configuration Protection もアンインストールする場合は、次の形式でコマンドを使用してください。

```
msiexec /i SGNClient_x64.msi /qn /log C:\Temp\SGNClient.log
CONFIRMCPREMOVAL=1
```

```
msiexec /x SGNCPClient_x64.msi /qn /log C:\Temp\SGNCP.log
```

**注:** アップグレード中、インストール済みのモジュールを変更することはできません。変更が必要な場合は、[移行について](#) (p. 11) を参照してください。

## 4.3 エンドポイントの構成パッケージのアップグレード

暗号化ソフトウェアをアップグレード後、新しい構成パッケージを作成し、エンドポイントにインストールするようにしてください。バージョン 7.0 にアップグレードしたエンドポイントでは、SafeGuard Policy Editor 7.0 で作成した構成パッケージを使用してください。

SafeGuard Policy Editor の旧バージョンで作成した構成パッケージは未対応のため、アップグレード後のエンドポイントでは使用できません。

また、次の環境で、新しい構成パッケージを作成して配布することを推奨します。

最新バージョンにアップグレードされていないコンポーネントやエンドポイントがある、バージョンが混在した環境では、Sophos SafeGuard で生成した証明書を署名するためのアルゴリズムをリセットする必要があります。SafeGuard Easy 6.1 から、より安全な SHA-256 ハッシュアルゴリズムがデフォルトで使用されます。これは、以前のバージョンではサポートされていません。したがって、バージョンが混在した環境では、ハッシュアルゴリズムを SHA-1 にリセットし、新しい構成パッケージを作成してエンドポイントに配布する必要

があります。すべてのコンポーネントとエンドポイントを最新バージョンにアップグレードしたら、より安全な SHA-256 アルゴリズムに再度切り替えることを推奨します。

**注:** 詳細は、**SafeGuard Easy 管理者ヘルプ**の「**自己署名証明書のアロリズムを変更する**」を参照してください。

エンドポイントの構成パッケージをアップグレードする方法は次のとおりです。

1. セキュリティ上の理由から、エンドポイント上の古い構成パッケージや使っていない構成パッケージはすべて削除します。
2. 最新バージョンにアップグレードした SafeGuard Policy Editor の「**ポリシー**」ナビゲーションペインで、必要に応じて既存のポリシーを編集します。
3. 「**ツール**」メニューの「**構成パッケージツール**」をクリックします。「**スタンドアロンクライアント用パッケージ**」をクリックし、詳細を指定して、スタンドアロン型エンドポイント用に構成パッケージを作成します。
4. 新しい構成パッケージをエンドポイントに配布します。

**注:** 管理型構成パッケージをアンインストールし、非管理型構成パッケージをインストールしても、管理型エンドポイントをスタンドアロン型エンドポイントにダウングレードすることはできません。

## 5 移行について

移行とは、インストール済みの製品、モジュール、または機能を変更することです。バージョン7.0以降、移行は同じバージョン内のみで実行できます。したがって、製品の旧バージョン内で移行を行ったり、インストールをアップグレード後、移行を行ったりすることが必要な場合もあります。

**注:** インストール済みの製品やバージョンに関する説明がこのガイドにない場合は、アップグレードや移行を直接実行できないことを意味します。有効なアップグレードパスや移行パスは、インストール済みの製品やバージョン用のドキュメントを参照してください。

**注:** 移行にあたり、ソフォスの暗号化ソフトウェアライセンスの変更が必要となる場合は、最新のライセンスを入手済みであることを確認してください。

### 5.1 SafeGuard Enterprise への移行

スタンドアロンソリューションである SafeGuard Easy を、一元管理の SafeGuard Enterprise スイート製品に移行して、ユーザーとコンピュータの管理や詳細なログなど、包括的な管理機能を利用することができます。

- 最新バージョンの SafeGuard Enterprise Server を設定する。詳細については、「**SafeGuard Enterprise 7.0 インストールガイド**」を参照してください。
- 管理コンソールを移行する。
- 非管理型エンドポイントを管理型エンドポイントに移行する。

#### 5.1.1 管理コンソールの移行

##### 前提条件

- SafeGuard Enterprise Server 7.0 を設定済みである必要があります。
- SafeGuard Policy Editor 管理コンソールをアンインストールする必要はありません。
- .NET Framework 4 と ASP.NET 4。作業を開始する前にインストールする必要があります。SafeGuard Enterprise 製品ディレクトリ内にあります。
- Windows の管理者権限があることを確認します。

管理コンソールを移行する方法は次のとおりです。

1. SafeGuard Policy Editor がインストール済みのコンピュータで、SGNManagementCenter.msi を起動します。ウィザードの指示に従ってインストールを行います。オプションはデフォルトの設定をそのまま選択します。
2. プロンプトの指示に従って、コンピュータを再起動します。
3. SafeGuard Management Center を起動して、初期構成を行います。詳細については、「**SafeGuard Enterprise インストールガイド**」を参照してください。

- 要件に応じて SafeGuard Enterprise のポリシーを設定します。

これで、SafeGuard Policy Editor が SafeGuard Management Center に移行されました。

## 5.1.2 非管理型エンドポイントの管理型エンドポイントへの移行

非管理型エンドポイントを管理型に移行できます。移行後、エンドポイントは SafeGuard Management Center で管理され、SafeGuard Enterprise Server と通信することができます。

### 前提条件

- SafeGuard Policy Editor が SafeGuard Management Center に移行されている必要があります。
- エンドポイント上の Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアをアンインストールする必要はありません。エンドポイントに Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアバージョン 6.0 以降がインストールされている必要があります。それより古いバージョンは、バージョンごとに、順にバージョン 6.0 までにアップグレードする必要があります。
- 移行を開始する前にエンドポイントをバックアップしてください。
- Windows の管理者権限があることを確認します。

エンドポイントを移行する方法は次のとおりです。

1. 最新のプレインストール パッケージ SGxClientPreinstall.msi をインストールします。暗号化ソフトウェアを正常にインストールするために必要なコンポーネントが、エンドポイントにインストールされます。  
古いプレインストール パッケージはアンインストールしないでください。
2. 該当する Sophos SafeGuard 暗号化ソフトウェアの最新バージョンをインストールします。

Windows インストーラは、すでにインストールされている機能を認識して、そのみをアップグレードします。SafeGuard Power-on Authentication がインストールされている場合、更新の正常終了後(ポリシー、鍵など)、更新された POA カーネルも利用可能になります。Sophos SafeGuard がコンピュータ上で自動的に再起動します。

3. SafeGuard Management Center の「ツール」メニューで、「**構成パッケージ ツール**」をクリックします。「**管理型クライアント用パッケージ**」をクリックして、構成パッケージを作成します。詳細は、「**SafeGuard Enterprise インストールガイド**」の「**管理型エンドポイント用の構成パッケージの作成**」を参照してください。
4. グループ ポリシーを使って、この構成パッケージを Sophos SafeGuard エンドポイントに割り当てます。

### 重要:

ユーザー/コンピュータの割り当てが移行されていないので、認証は無効になります。そのため、移行直後のエンドポイントは保護されていない状態です。

5. ユーザーはエンドポイントを再起動する必要があります。初回ログオンはこれまでと同様に自動ログオンできます。新しい鍵と証明書がユーザーに割り当てられます。

6. ユーザーは、もう一度エンドポイントを再起動して、SafeGuard Power-on Authentication でログオンする必要があります。各コンピュータは再起動を二回行うまで保護が再開しません。
7. 古い構成パッケージや使用していない構成パッケージは削除してください。

以上で、Sophos SafeGuard エンドポイントが SafeGuard Enterprise Server に接続されます。

## 5.2 エンドポイント上の SafeGuard インストールの変更

インストール済みのモジュールの変更が必要な場合は、インストール済みのバージョンのインストーラを再実行して、インストールを変更してください。次の制限事項があります。

- SafeGuard のボリュームベース暗号化を BitLocker 暗号化に、あるいはその逆に変更する場合は、製品をアンインストール後、再インストールする必要があります(データは復号化する必要があります)。
- BitLocker を BitLocker 対応のチャレンジレスポンスに、あるいはその逆に変更する場合は、製品をアンインストール後、再インストールする必要があります(データは復号化する必要があります)。

各モジュールのシステム要件は、**SafeGuard Enterprise 管理者ヘルプ**およびリリースノートを参照してください。

OS の移行に関する詳細は、[別の OS へのエンドポイントの移行](#) (p. 13) を参照してください。

## 5.3 別の OS へのエンドポイントの移行

いったん SafeGuard Easy をインストールすると、同じコンピュータ上の OS はサービスパックバージョンだけ更新できます。たとえば、Windows 7 のサービスパックの更新はインストールできます。

ただし、SafeGuard Enterprise がインストールされているときに、あるオペレーティングシステムシリーズから別のオペレーティングシステムシリーズに移行することはできません。たとえば、SafeGuard Easy がインストールされている状態で Windows 7 から Windows 8 に移行することはできません。

## 6 テクニカルサポート

ソフォス製品のテクニカルサポートは、次のような形でご提供しております。

- 「SophosTalk」ユーザーフォーラム (英語) (<http://community.sophos.com>) のご利用。さまざまな問題に関する情報を検索できます。
- ソフォス サポートデータベースのご利用。 [www.sophos.com/ja-jp/support.aspx](http://www.sophos.com/ja-jp/support.aspx)
- 製品ドキュメントのダウンロード。 [www.sophos.com/ja-jp/support/documentation/](http://www.sophos.com/ja-jp/support/documentation/)
- オンラインでのお問い合わせ。  
<https://secure2.sophos.com/ja-jp/support/contact-support/support-query.aspx>

## 7 ご利用条件

Copyright © 1996 - 2014 Sophos Limited. All rights reserved. SafeGuard は Sophos Limited および Sophos Group の登録商標です。

この出版物の一部または全部を、電子的、機械的な方法、写真複写、録音、その他いかなる形や方法においても、使用許諾契約の条項に準じてドキュメントを複製することを許可されている、もしくは著作権所有者からの事前の書面による許可がある場合以外、無断に複製、復元できるシステムに保存、または送信することを禁じます。

Sophos、Sophos Anti-Virus および SafeGuard は、Sophos Limited、Sophos Group および Utimaco Safeware AG の登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

サードパーティコンポーネントの著作権に関する情報は、製品ディレクトリ内の「**Disclaimer and Copyright for 3rd Party Software**」(英語) というドキュメントをご覧ください。